

VI-26	ICT 教育	○鷹野、宮下、白田
-------	--------	-----------

1 目標

- ・教科指導や、様々な教育活動において、教育効果を高めるために ICT 機器の活用の推進を図る。

2 指導上の留意点

- ・教科ごとに学習場面に応じて ICT 機器を適切に活用しながら、子どもたちが基本的な操作を習得できるように指導する。
- ・タブレット端末を教具として積極的に活用することで、学習の振り返りや学習方法の幅を広げる。
- ・情報を主体的に収集し、選択・整理し、提示するという過程の中で、インターネットを利用して正確な情報を収集する力や、他者へ発信・伝達する能力を育てる。
- ・ICT を活用した他者との意見交流や共同で課題に取り組む活動を通して協働的な学びの充実を図る。
- ・指導上有効であると考えられる場面を見極め、効果的に活用する。

3 指導方針

○学習理解のための ICT 活用

- ・授業や家庭学習で学習定着ソフトの活用によって学習内容や知識の定着を図る。
- ・理科での実験の映像や、保健体育での実践的な動きの映像など、視覚的な資料の提示を通して学習内容への理解を促す。
- ・デジタル教材などの活用によって生徒一人一人の学習履歴を把握し、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することで個別最適な学びの実現を図る。

○学習指導のための ICT 活用

- ・挿絵や写真等の拡大・縮小や、画面への書き込みの機能を活用しながら分かりやすく説明し、子供たちの興味・関心を高めながら授業を行う。
- ・インターネットを利用して、信頼できる情報源から正確な情報を収集、整理できるように、情報リテラシーの育成を図る。
- ・アンケートフォームを活用した学習状況の即時フィードバックによって自らの学習を調整し、自律的に学ぶ児童生徒を育成する。

○教員研修の定期的な実施

- ・教員の情報活用スキルの差を少なくし、また有効な活用法などについて学ぶための研修会を定期的実施する。また、学校に導入した ICT が有効かつ効果的に活用されるようにするために、環境設備に合わせた推進体制の整備、教員同士での情報交換や実践例の紹介等も定期的に行う。

令和5年度 川上中学校 ICT教育全体計画

【学校教育目標】 感受性豊かに 思慮深く 実践する生徒に
 【目指す生徒像】 開かれた学級集団で自己表現し、
 生き生きと学習や部活動に励む生徒

(ICT教育の目標)

①情報活用の実践力

課題や目標に応じて情報を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況等をふまえて発信・伝達できる能力を育成する。

②インターネットリテラシー教育の充実

情報モラル、情報セキュリティの知識を正しく持った上で、インターネットを安全に活用する能力を育成する。

③協働的な学びの実現

ICT機器を用いた意見交流や、共同編集協働的な学びをしようとする態度を育成する。

【川上中学校のICT教育の目標】

○ICTを利用した学習形態の定着

- ・教科に応じて学習の色々な場面に応じてICTを活用し、子どもたちが基本的な操作を習得できるよう指導する。
- ・タブレット端末を教具として積極的に活用し、学習の振り返りや勉強方法の幅を広げ、生徒一人一人の学習履歴を把握し、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することで個別最適な学びの実現を図る。

○情報収集・活用能力、発信・伝達能力の育成

- ・必要な情報を主体的に収集し、選択・整理する、提示するという過程の中で、インターネットを活用する力や、他者へ発信・伝達できる能力を育てる。

○協働的な学びの育成

- ・ICTを活用した協働学習によって、資料の共有や他者との意見交流などを有効的に行ない、協働的に学習に取り組む力を育てる。

各教科	特別活動	総合的な学習
○ICT機器の基本の操作を習得し、有効に活用する技能を育成する。 ○情報モラル・情報セキュリティについての知識を持ち、インターネットを安全に活用して必要な情報を収集する能力を育てる。 ○整理した情報を、ICT機器を活用してまとめる能力を育てる。 ○観察・実験の結果等のデータを処理し、表現・考察を行う能力を育てる。	○ICT機器の活用による情報収集・整理、プレゼンテーション用資料の作成など、表現力の育成とともに、必要な情報を収集し、効果的に発信・伝達する能力を育てる。	○インターネットを活用して調べたことをまとめたり、学習したことを発表したりする活動を通して、ICT機器を効果的に活用する能力を育てる。